

目指す学校像

地域とともにある

勢いのある学校

No. 14 (R元. 7. 18発行) 文責 校長 福田雅也

# 高き志【にころざし】

## 「夢の背中」

「頑張れ！」

私は、この言葉を使うことに抵抗を感じるときがあります。例えば「地震に負けず頑張っ！」というような場面です。私は、このように使った場合、本人にそのような感情がなくても、とてもよそよそしくて、当事者意識がなく、無責任のように感じます。

3年ほど前に放送されていたある栄養補助食品のCMの中で、私のこのような気持ちを、また別の面から表現してくれるような言葉が流れていました。それは、受験に向かう息子の背に向けてつぶやく母親の言葉です。

「頑張れとは言わない。頑張っていたことは知っているから。」

そして母が息子に実際に伝えた言葉は、文字にした「大丈夫！」でした。そして、それを見た息子は、小さく「ありがとう」と答えるのです。

このCM、覚えている方もいらっしゃるかと思いますが、私が「頑張れ！」という言葉を使うのに抵抗を感じる理由の一つを、見事に映像として見せてくれたように感じ、感動さえ覚えました。

さらに、流れる名曲「3月9日」と共にこれを見ると、たったの30秒間なのにあっという間に胸が熱くなりました。このCMは30秒間のバージョンですが、インターネットで調べてみると、別に2分間や4分半のバージョンがありました。こちらは、しっかりとしたドラマ仕立てになっていて、より心揺さぶられます。見ることはできる方は、ぜひご覧ください。（決して会社の回し者ではありません。いいものはいいのです。）ロケ地は長崎。息子が受験に失敗した場面から始まり、1年後の受験の場面までが描かれています。時間の流れを季節の移り変わりで表現しながら、息子の葛藤や苦悩と、見守ることしかできない母親の姿が印象的に映し出されます。その間に小さな子どもの頃の場面がちりばめられているのです。

最近涙もろい私は、当然のごとく、完全に涙してしまいました。

なぜ、こんなにも心揺さぶられるのか、ちょっと考えてみました。

それは、きっと「共感」なのだと思います。私たち親は、当然「親の視点」から共感するのでしょうか。特に、子どもの受験や子どもが社会人になるための苦労を経験した私たち世代はそうなのだと思います。子どもを思う親の気持ちを、完全に自分と重ねてしまうのです。さらに、私たちは「子どもの視点」からも共感できるのでしょうか。受験とは限らず、私たちはみんな、何からの壁にぶつかり苦悩や葛藤を経験したり、親の愛情を感じながらも、親に反抗したりする経験をして成長してきたからです。

ちょっと、理屈っぽくなりました。とにかく、親の愛情、子どもの苦悩・葛藤と成長、そして親子のつながり、これらがつまった素晴らしい作品です。CMのタイトルは「夢の背中」。ちょっとご覧になり、心に潤いを与えてみてはいかがでしょうか。

いよいよ一学期も終わり、夏休みに入ります。今号が1学期の最終号になります。

保護者や地域の方々のおかげで、高木小学校は順調に教育活動を進めることができ、子どもたちも笑顔いっぱいに、そして健やかに成長することができました。本当にありがとうございました。

いつもより少し短い夏休みですが、それぞれのご家庭で、夏休みだからこそその素敵な家族の思い出がたくさんできることを願っております。